

令和3年12月17日
地域創生部
文化財保護課文化財活用係
電話：027-897-2928 内線：2928

記念物（史跡）の追加指定について

令和3年12月17日（金）に国の文化審議会（会長 佐藤 信）が
開催され、本県所在の史跡1件の追加指定が答申されました。

1 答申が行われた本県所在の史跡

史跡 岩櫃城跡（群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町字保成1496番ほか）

岩櫃城跡は城下町を取り込んだ大規模で複雑な縄張で構成される特異な山城であることから、東国の戦国時代史を考える上でも極めて重要とされています。

詳細は別添資料を参照。

2 本県の史跡数（官報告示後）

52件（追加指定のため変更なし）

3 関係機関 連絡先

東吾妻町教育委員会社会教育課 0279-68-2261

史跡 いわびつじょうあと 岩櫃城跡（東吾妻町）の追加指定について

- ① 令和元年に国の史跡として指定されました。今回は新たな場所が追加指定されます。
- ② 岩櫃城跡は城下町を取り込んだ大規模で複雑な縄張で構成される特異な山城であることから、東国の戦国時代史を考える上でも極めて重要とされています。武田氏、後北条氏、上杉氏という有力な戦国大名の攻防の舞台となりました。

1 指定履歴

令和元年10月16日 官報号外第139号文部科学省告示第77号

2 所在地（追加指定分）

群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町字保成 はらまち ぼなり 1496番 ほか22筆

3 面積

既指定面積 212,507.20㎡

追加指定面積 33,405.63㎡

合計 245,912.83㎡

4 所有者（追加指定分）

民有地 29,306.63㎡

神社有地 4,099.00㎡

5 概要

（1）追加指定の経緯

- これまでの発掘調査成果などを基に所有者と東吾妻町教育委員会が協議を行い、同意を得ることができた土地について、令和3年8月に文部科学大臣あてに史跡の追加指定の手続きを行いました。

（2）立地

- 吾妻川の左岸、群馬県北西部の岩櫃山（標高802m）の中腹（標高約590m）に立地します。

（3）岩櫃城跡について

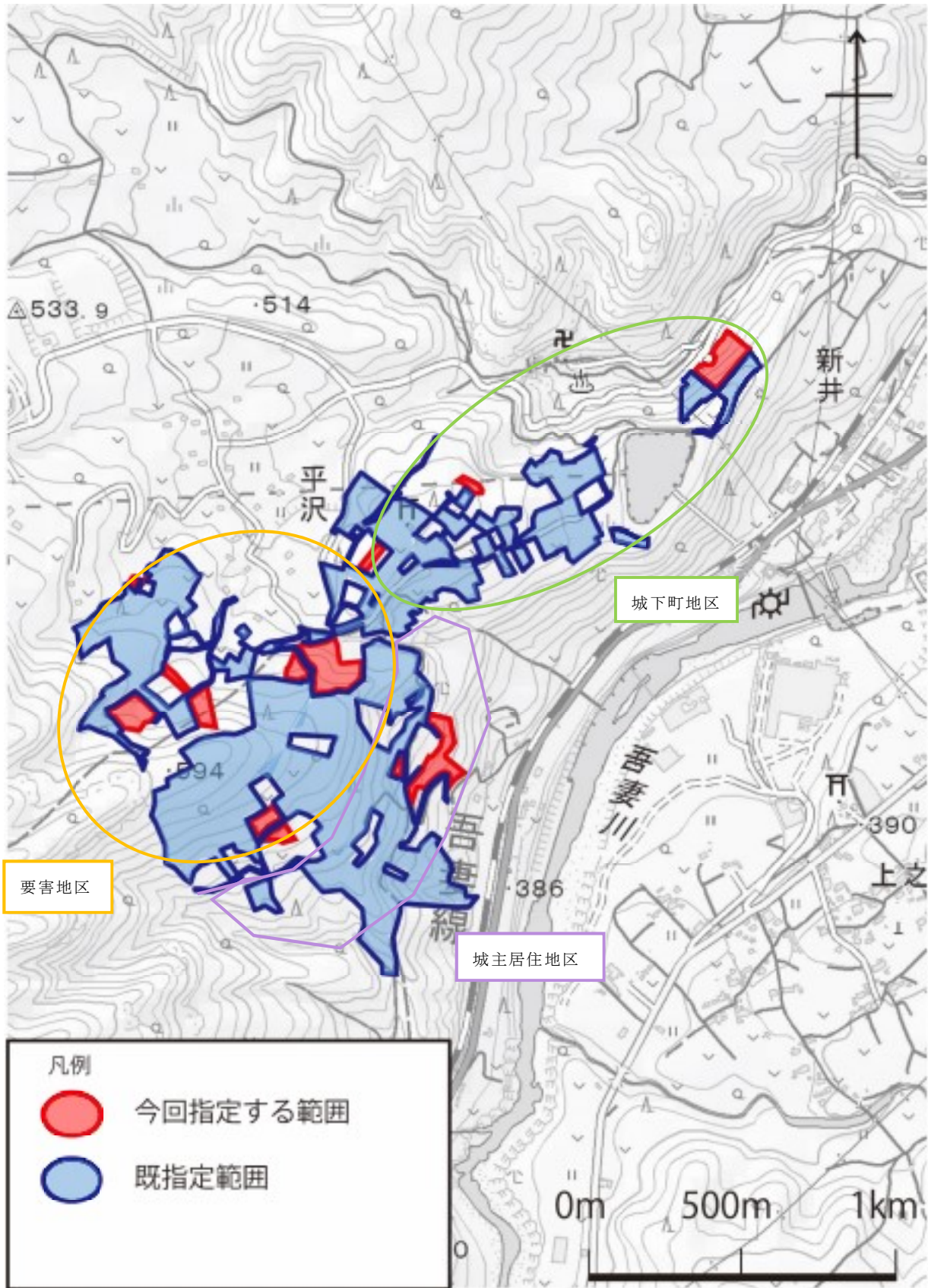
- 岩櫃城跡は戦国時代から江戸時代初期にかけての山城です。岩櫃山より東側へ四方に伸びる尾根上に本丸、二ノ丸、なかじろ中城といった主要な曲輪くるわ（堀や石垣で区切られた城の区域）が築かれ、たてぼり囲むように堅堀（敵が斜面を横方向に移動するのを妨害するための堀）が配置されています。
- 岩櫃城跡を構成する主要な曲輪群の周辺には、職人や商人の居住地区と考えられる城下町地区、やなぎさわじょう柳沢城やごうばらじょう郷原城といった支城が備えられています。要害地区と城下町地区を併せ持つ縄張（城の設計）は全国的にみても特異です。また、城域は136haと、群馬県内の中世城館で最大規模を誇ります。
- 岩櫃城が築城された時期は具体的には不明ですが、文献によると、16世紀中頃の永禄7年（1564）には確実に存在したとされます。16世紀末である天正年間以降は真田昌幸をはじめとした真田氏の居城となり、岩櫃城は信濃国と上野国を結ぶ中間拠点的な役割を果たしました。

- ・平成25～27年度に東吾妻町教育委員会が実施した発掘調査によって、長野県や山梨県に類例があるかわらけ（食事や宴会、祭祀で使われていた中世の土器）や、信濃型の内耳土器（内側に耳のような形の握手が付いた、囲炉裏などに吊り下げのための土鍋）が出土したことから、信濃国と強い関連性があったことが確認されました。
- ・東吾妻町教育委員会などによると、令和3年度には本丸から出土した坩堝（金属を溶解、合成するための容器）に金の粒子が見つかったことから、本丸内に金属を扱う職人が活動する場所があったとされています。岩櫃城跡の実態の解明にますます注目が集まっています。

(4) 位置図



(5) 追加指定地の位置図 (東吾妻町教育委員会提供)



(6) 写真 (東吾妻町教育委員会提供)



岩櫃城跡 航空レーザ計測を用いた赤色立体地図



岩櫃城跡 俯瞰（北東より、白矢印が本丸周辺）